

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家(すずらん)		
所在地	小樽市桂岡町11-13		
自己評価作成日	令和5年12月3日	評価結果市町村受理日	令和6年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域密着型サービスの意義を理解し、入居されている方が認知に障害を持っていても適切な介護を受ける事によって穏やかな生活ができる事を目標にしています。地域の中で生活をされてきた方々が、地域や家族と繋がり、それまで過ごしてきた環境で日常生活を続けられる様支援いたします。ゲストハウスの利用や里の家の畑で野菜などの作物を育て一緒に収穫し、料理していただくなど工夫した取り組みを行っております。外出や地域の方々との交流は新型コロナ感染防止の観点から縮小しておりますがすこすつ元に戻り交流を行えるようになってきました。ご家族様は玄関での短い時間の面会を楽しみにして来られる方もいます。また毎月、計画作成担当者から入居者様の生活の様子を伝え家族様と一緒に介護を考えるようにしております。比較的年齢が高い職員が多い事もあり家族や入居者様の気持ちを理解して関わる事ができています。職員は入居者様と生活を共にしている事を意識し、ゆつりと関り、居心地の良い暮らしができる様支援しております。今年度は認知症専門職として業務に関わる事ができる様、身体拘束、虐待、感染対策等の研修にも力を入れた年でもありました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172000259-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から徒歩圏内で眺望に優れた丘陵地帯に位置している。桂岡町の活性化を主旨としたボランティアによる総勢60人程の子供や大人がハロウィンの仮装をして訪れ、利用者は窓越しから「可愛い」など歓声を上げ、姿が見えなくなるまで手を振っている様子が家族宛ての事業所便りに写真付きで載っている。室内レクリエーションで使う道具は家族の手作りや寄贈であり、また、退去した家族からも定期的なタオルが届いている。利用者は、敷地内の栗の皮むきや近所から差し入れの蒔の処理、畑の野菜、果物の手入れや収穫、ゲストハウスでのお茶会や運営推進会議に参加をし「長生きしたい」などの要望を発言している。職員は、利用者の意向に出来る限り応じたいと、意見や提案を持ち寄り企画を立案している「グループホーム里の家」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を事業所で作成し、毎朝唱和している。会議や申し送りの際に理念に基づき、実践に繋げる様、話す機会を持っている。	法人理念に加え、ユニットごとにケア理念を策定し、新人研修時に理念はケアの根幹であることを説明している。朝礼時の唱和や申し送り時、会議等で、理念の意義と実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が地域の方々と繋がりが持てる様、施設長を中心に関わりを持っている。コロナ禍ではあるが、小学校の学芸会見学やハロウィン行事を行っている。お祭りの時には子供神輿を楽しめる。	地域とは、小学校の学芸会に職員が訪れたり、リビングの窓越しから子供神輿や60人の子供から大人のハロウィンでの衣装を見ることができ、利用者は歓声を上げている。資源物回収の協力や住民からの問い合わせも丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はホーム内で行っていたが、11月より、地域の方も参加できる体制となった。会議録や里の家便りをお渡しする事で、情報の共有を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は感染症予防により、職員と入居者様のみで行っていたが、11月よりご家族様や市役所の方々にも参加いただいた。事前にアンケートを取り、ご家族様や参加者のホームに対する要望を伺った。	会議は、複数の行政関係者や地域住民、家族の参加を得ている。事前アンケートの中で、初めて会議に出席する推進委員の要請で事業所の全容をスライド映写機で説明や運営状況を報告している。その後、推進委員と意見や情報交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が市役所、関係機関を訪問し、入居者様に関する諸手続きを行い、日頃から連絡を取っている。里の家便りや運営推進会議議事録等で取り組みを伝え、居宅支援事業所との協力関係を築いている。	行政機関とは、法人と連携しながらホーム長が運営上の課題解決に向けて関わっている。介護認定調査や運営指導等で来訪の各担当者とは、情報の共有や運営の質向上に向けた助言が得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、二か月に一度話し合いの機会を持っている。新人職員に早い時期に研修を行い、身体拘束に関する知識を得る様にしている。日常的に話す機会を作り、身体拘束の理解に繋げている。	身体拘束廃止を基本とし、2か月ごとの適正化委員会でご共通認識を図り、年2回の研修会後のレポートで職員の理解度を確認している。カンファレンスでも、折々の新聞報道や身体拘束を行わないための解決策等を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでは年に2回の研修機会を持っている。又、カンファレンスで介護について話し合い、虐待に繋がらない取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を用いている入居者様はならず、活用する機会は少ないが、成年後見制度について学ぶ機会を持ち、今後活用できる様、見聞を広げている。管理者は後見センターと連絡を密に取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて施設長を中心に不安や疑問点について伺い、理解と納得を頂いている。重要事項の改正の際には書面と電話等で詳しく説明し、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様様やご家族様が意見や要望を施設長等に伝えやすい環境を整えている。毎月の近況報告の際に希望を伺っている。本社へも都度報告し、対応している。外部への苦情窓口の案内も行ってはいる。	家族には毎月、利用者の様子を電話や来訪時に伝え、さらに写真掲載の事業所便りに個別の写真を数枚入れて送付している。家族アンケートで満足度や要望等を確認し、自由な面会や外出の要望に対しては状況を説明している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長はユニット会議で出た意見や提案を代表者に都度伝えている。その他、いつでも職員は施設長に意見を伝える事ができる。	職員は、利用者の暮らしの活性化に向けた提案を次々とホーム長に伝え、パンバイキング等が実現している。ホーム長は、状況によっては法人の指導を仰ぎ、職員が生き生きと働ける職場環境の構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務や研修の希望は自由に行える様、概ね整備されている。人材不足ではあるが、有休取得に向けて勤務調整する努力を行っている。休憩室が整備されており、やりがいを持って働ける環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー、中堅、新人等職員に合わせた内部研修を行っている。資格取得など希望に合わせて、外部研修にも参加できる環境を整え、働きながらのトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は感染予防をしながら、同業者と研修の機会を持った。交流は難しいが、施設長を中心にZoom研修は毎月行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を中心に施設長や計画作成担当者をご本人様の希望や不安を伺う時間を持ち、信頼関係を深める様、努めている。入居後は寄り添う時間を作り、安心できる雰囲気作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時を中心に施設長や計画作成担当者が要望や不安を伺い、ホームで安心して生活できる様、努めている。また、入居後もご家族様が安心できる様、月に一度の定期報告はご家族様より、評価を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長が中心となり、入居申し込みの面談や見学の際に必要な支援を見極め、提案している。必要とされる支援によっては他の機関への案内を行う事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共にお仕事や行事を楽しむ体制を整えている。重度の方にも負担にならない程度のお手伝いをしていただく事が、共に作業し、お礼を伝える場面を持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の電話連絡や里の家便りを通してご家族様が絆を感じられる様にしている。感染予防に努め、電話やお手紙、感染対策を行った上での面会にて、お互いの笑顔が見られている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行い、馴染みの方との面会を行っている。小樽の海岸や朝里ダム等、小樽市内や札幌方面へのドライブや散歩に出掛け、馴染みの風景を楽しんでいただいている。	面会は家族はもとよりキーパーソンの了承があれば友人、知人も受け入れている。ドライブで小樽や近郊を訪れ久しぶりの景色を眺めている。電話や手紙の取り次ぎも行い、馴染みの関係を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、馴染みと感じ、ホールや食堂で過ごす事が多く、お話やお仕事をできる環境を整えている。他者と共に動く事も多、都度職員も共に動き、支え合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も来訪や連絡をくださるご家族様もおられ、フォローできている。入院による退去の場合、退院後の相談を受け、体調的に可能な場合、再度申し込めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様のお話や表情から、意向の把握に努め、ご本人様らしい生活の継続ができる様、支援している。意思表示が難しい方は職員同士情報交換し、ご本人様の気持ちに沿った生活を送れる様、努めている。	利用者から「家に帰りたい」写経をしている利用者を見て「私もしたい」等の要望に対して、散歩に連れ出したり、写経の用意をして思いに応じており、人生最後の過ごし方についても聞き取りに努めている。状況に鑑みケアプランに反映することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントやフェイスシートを大切にし、ご家族様やご本人様よりお話を伺い、馴染みの環境の把握を行い、生き生きとした生活を送れる様努めている。カンファレンスを行い、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個人の過ごし方やリズム、心身の状態を観察し、把握している。行事やお手伝い、散歩等日常生活を通して有する力を確認し、できる事の継続を目指している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を介護計画に取り入れるため、お話をする機会を持っている。会議等で毎回モニタリングを行い、それぞれの意見を取り入れ、ご本人様の思いを反映したプランを作成している。	ケアプランは、更新時や利用者の様子に変化があるときは、新しい支援目標を職員間で協議している。利用者の意向や家族の願い、医療従事者の所見、モニタリングや会議等で出された職員の意見など、多様な視点で目標を設定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人に対して目標を設定し、プランが実施されているか、確認している。入居者の言葉や表情を記入する事で、職員間で情報共有を行い、プランの実施や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様のニーズに対応する様努めている。入居者様の言葉に耳を傾け、希望が聞かれた時は柔軟に対応している。ご家族様より要望があった時は柔軟に対応できる様、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を支える社会資源については把握しているが、感染予防の完観点から、ボランティアの来訪が難しく、窓の外からのハロウィン来訪や子供神輿等、限定的になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の希望に沿って受診できている。感染予防のため、緊急性の低い疾病についてはご家族様納得の上、訪問診療で対応している。緊急時を含め、24時間の電話対応にて、適切な医療に繋げている。	現在、利用者は週1回の往診医を主治医としている。専門医への受診は基本的に家族の支援としているが、急変時は職員が対応している。歯科医による都度の往診も整備し、週1回訪問看護師による健康管理も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護を受けている。訪問時には入居者様の変化を伝え、アドバイスやかかりつけ医への報告もして頂いている。適切な処置もして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は必要な情報提供を行い、安心して治療できるようにしている。治療後、早期に退院できる様、地域連携室と連携を取っている。普段から、施設長を中心に病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの経験は多く、対応する準備ができている事をご本人様、ご家族様にお伝えしている。ご家族様とDrとの話し合いによって方針を決め、それに沿って全面的に協力している。訪問看護の協力も得られている。	入居時に、重篤時の対応を説明して意向を聞いている。急変時は、主治医の見解と家族に再確認を行い、態勢が整った時点で最終ケアの開始としている。看取りを初めて経験した職員から「こういう介護っていいですね」の声が上がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、消防による救急救命講習を行っている。経験ある職員が都度、新人職員に伝える機会を持っている。折に触れ、初期対応について話す機会を持っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	フィールドワークを行い、危険個所の確認を行った。備蓄品の管理を行い、災害時に不安のない様になっている。年に一度は災害の訓練も行っている。町内会館、地域との協力体制を築いている。	火災や地震などの災害マニュアルを作成し、定期的に日中や夜間帯を想定した避難訓練を実施している。災害時の備蓄品は、一纏めにして見える化している。避難場所の確認など行いながら防災に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や更衣等はプライバシーに配慮し、さりげない支援を心がけている。職員同士注意し合える関係を築き、常に入居者様の人格を尊重する対応を行っている。	契約書の中にグループホームの倫理綱領や利用者の権利としてプライバシーを保ち、尊厳の維持を記載しており、職員は実践に努めている。職員間でも話し合ったり、上司からの助言で正しい接遇の理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に思いや希望を表しやすい環境を整えている。ご本人様の思いを伝えづらい方は表情や行動を観察し、思いを汲む様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や個人対応等で難しい事もあるが、ご本人様のペースを大切に希望に沿って支援する様努めている。起床や就寝も概ねご本人様のペースでできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を伺い、ご本人様好みの衣装を着ていただいている。選択が難しい時はご本人様らしい衣類を提供している。身だしなみにも配慮し、支援している。又、清潔感のある服装を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの提案や食器拭きをお願いしている。野菜や果物は里の家の畑で入居者様と育て、収穫し、すぐに提供する事により、収穫の喜びを感じていただいている。行事の際は環境も含め、華やかにし、楽しめる様にしている。	食事は、在庫の食材や菜園の野菜と果物を活用して、利用者の食欲に繋がる献立を立てている。2種類の具材入りの味噌汁と3品の副菜、昼食はデザートを付けている。ときには昼食バイキング、お弁当、模擬喫茶、フルーツサンド、バーベキューなど多様な内容になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日確認し、体重や栄養状態と比較し、足りない場合は好みの物やお茶ゼリーを提供している。難しい場合はDrに相談し、栄養補助飲料を処方いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況に合わせて、声かけや支援にて口腔ケアを行っている。変化のある時は訪問歯科と連携し、対応している。ご家族様の希望により、歯科検診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や排泄パターンを共有し、自立に向けた支援を行っている。自力でトイレに行かれる方はプライドに配慮し、さりげない支援を心がけている。下着はご本人様に合う様、都度見直しを行っている。	利用者それぞれに排泄の形態に違いはあるが、羞恥心に配慮してトイレでの排泄を基本としている。衛生用品は色々試してみるなど、利用者が不快にならないよう職員間で話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着かなくなる事や便秘の原因を理解し、水分や食事の調整を行っている。体操や腹部マッサージ等を行い、排便を促している。Drと連携し、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、しまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様のタイミングを考慮し、支援している。入浴時も体調や表情を伺いながら、ご本人様のペースに合わせて、楽しんでいただいている。できる限り、希望に添える様、努めている。	入浴は、日中帯に週2回を目安にしているが、決して無理強いはいしないで利用者の意向を大事にしている。シャワー浴は、足湯と身体にバスタオルを掛けて湯冷め対策をしている。入浴中の情報は、職員の共有としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は居室やホール、食堂等、入居者様の落ち着いた場所で取って頂いている。夜間は個々のリズムに合わせて就寝いただき、適時排泄支援を行い、安眠できる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導があり、薬の確認がいつでもできる体制作りを行っている。内服などに変更ある時は申し送りノート等を活用し、職員の周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を活用し、ご本人様が楽しめるお手伝いや余暇活動を提供している。体操やドライブ、お散歩、読み物、歌のDVD等を提供し、楽しませている。嗜好品も提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食は難しいがゲストハウスでのお茶会等活用をしている。ドライブ、お散歩、庭仕事にお誘いしている。外出希望がある時は可能な限り、対応している。受診時にはご家族様との時間を大切にされている。	事業所周辺の散歩や畑の野菜の手入れ、玄関前の花壇に球根を植え水やり、ベンチで日光浴、敷地内のゲストハウスでお楽しみ会などで外気に触れている。時にはドライブで紅葉見物を楽しんでいる。	年末には自宅に一時帰宅の要望があるなど、少しずつ外出の機会は増えている。今後に向け、家族との外出や事業所としての外出企画を検討しているので、その取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はご本人様がお金を持つ事の大切さを理解している。希望があれば、ご家族様了解の上、ご本人様でお金を所持されている。自販機で好みのジュースを買う方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にできる体制を整えている。毎日の電話を楽しまれる方もいる。電話連絡の際にお話できる様、機会を持っている。ご家族様の手紙も楽しまれている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者様の状況に合わせ、配置の見直しを行っている。混乱しない様、工夫し、居心地を良くしている。不快な刺激がない様、音や明るさ、温度や匂いにも注意している。お花や写真、季節の飾りも飾り、笑顔で過ごせる様努めている。	大部分の利用者はリビングに居ることが多く、職員は、心地良い生活環境を整えている。クリスマスツリーや大きめのサンタクロースフィギュア、行事写真などが穏やかな雰囲気を醸し出している。一人になれる場所もあり、利用者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを沢山配置し、ゆったり過ごせる様にしている。共用空間でも人目に付きづらい場所を作り、安心できる空間作りに努めている。共用空間では馴染みの方々が自由にお話されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室を居心地よく、混乱を招かない空間となる様、ご本人様、ご家族様と共に整備している。馴染みの家具写真、飾り物等をご持参いただき、自由に眺められる様、工夫している。	クローゼットを設置している居室には、利用者や家族が用意した生活用品や家族写真、趣味の物が持ち込まれている。利用者の状況に応じて、荷物の持ち帰りを家族に要請している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所がわかりやすい様、目印を付ける等工夫している。階段や廊下には手摺があり、見守りや支援で安全に移動されている。		